

Constant Troyon

コンスタン・トロワイヨン(1810-1865)



風 景

板に油彩

21.8×30 cm

バルビゾン派七星・動物画の第一人者

Constant Troyon

コンスタン・トロワイヨン(1810-1865)



作品名 風景

種類 板に油彩

サイズ 21.8×30 cm

※左下にサイン 証明書付き

略 歴

1810 セーヴィルの磁器製作所の絵付け職人の家庭に生まれる。
同製作所内のセーヴル陶磁器博物館長リオクルーに師事

磁器絵付師として働きながら、森での写生に励む。

1833 サロンに風景画3点を出品。風景画家としての基本は、
ジュール・デュプレ、ナルシス・ディアスから学ぶ

1838 サロン三等賞

1840～フォンテーヌブローの森で制作。その後も大作をサロンに出品

1846 サロン一等賞を獲得

1847 オランダ旅行。著名な動物画家のカイプとポッテル（17世紀オランダの2大巨匠）
の作品を一年間オランダに滞在して地道な研究を続けた。
帰国後、家畜を画面に取り入れ、限りなく動物に近づいて行った“動物風景画家”的になる。

動物風景画が歴史画の地位に押し上げる行為でもあり、一部から批判、異端扱いをうける。

1849 レジョンヌ・ドヌール勲章授与。バルビゾン派の中で最もはやく成功。

筆触分割の技法を考案。（ポール・ユエから教わったという説もあり。
ただし、ポール・ユエはサロン出品作品にこの技法は一切使用しなかった）。

これにより、後の印象派の技法に近い光の効果をしめした。

1855 万国博覧会で一等賞を獲得し、フランスで初めて真の動物の姿を描いた画家として
動物風景画の第一人者となる。

1859 19歳のモネと出会い、野外での制作を勧め筆触分割の技法など教える。

1865 パリで死去

バルビゾン派で最も革新的であった1人。動物風景画の第一人者として知られる
バルビゾン派の七星の1人。ルーブル美術館、オルセー美術館多数収蔵。